

第2回 囲碁・将棋チャンネル放送番組審議会（議事概要）

第2回の放送番組審議会は、平成25年7月10日（水）、私学会館 アルカディア市ヶ谷（6F 伊吹・東）にて開催された。

会議ではまず、業務部係長よりチャンネル加入世帯数などの概況を説明し、前回委員長より要請のあった「生放送」の実施報告と、新番組の紹介を行った。次に業務部課長より10月からの新編成概要を説明。また、前回委員より要請のあった「視聴者のご意見」をご紹介。以上の事務局からの説明に対する質疑応答と意見の交換を行い、終了した。

▼出席委員

委員長	岡田 裕介	東映株式会社 代表取締役社長
	足立 盛二郎	ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役
	兵頭 俊夫	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 物質構造化学研究所特別教授
	野田 慶人	日本大学 芸術学部 学部長
	中村 幸雄	株式会社損保ジャパン 顧問
	金子 光男	明治大学附属明治高等学校・中学校 校長
	小川 誠子	囲碁棋士／日本棋院理事
	関根 紀代子	将棋棋士／女流棋士会前会長

委員総数：9名 出席委員数：8名

欠席：音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）

▼事務局側出席者

岡本 光正	代表取締役社長
勝股 信昭	取締役
梅澤 秀行	業務部部長
遠藤 健	業務部課長
板原 慎也	業務部係長
赤神 夏織	業務部

▼チャンネル概況

ケーブルテレビの加入世帯数については大きな変動なし。スカパー！は、欲張りパックへの参入により、視聴可能世帯数が36万世帯増加の予定。

▼史上初！全5対局完全生中継「将棋界の一番長い日」(生放送)のご報告

● 概要

将棋界で最も注目度が高いといっても過言ではないA級順位戦リーグ最終戦の全5対局を、囲碁・将棋チャンネルとスカパーの計7chを使い、17時間半におよぶ生放送を行った。囲碁・将棋チャンネルでは、人気棋士の解説付きの放送を行った。BSスカパーでは、番組内で質問やご意見をメール募集し、番組内で読み上げたりプレゼントを行うなどして、双方向的な番組を展開できたと感じている。視聴率も好調だった。

● 主な反省点

- ・フリップなどの準備不足
- ・無言の感想戦が長いといった演出面での失敗
- ・昇級よりも降級にスポットが当たってしまい、雰囲気をも暗くした

▼新番組のご紹介

【囲碁】「記憶の一局」(58分尺)

【将棋】「駒桜通信」(3分尺)

▼主催イベントとの番組連動

- 囲碁アマチュア竜星戦・ジュニア竜星戦
- 将棋アマチュア銀河戦・ジュニア銀河戦
- J:COM杯3月のライオン子ども将棋大会

▼10月からの編成ご紹介

● 変更点

- ① 「囲碁スペシャル」、「将棋スペシャル」の初回放送枠変更
- ② 「竜星戦」、「銀河戦」の初回放送枠変更
- ③ 「ドコモ杯女流棋聖戦」の初回放送枠変更

▼視聴者のご意見

【多くいただいているご意見】

対局番組における「手番表記」について

↳以前より多数のご要望をいただいていたので6月放送分より対応

● 『中国竜星戦』

↳好意的なご意見から、盤と字幕の両方を目で追うのは難しいといったご意見までいただいている。吹き替えを検討中。

● 情報番組を復活してほしい

↳再開を検討中。

その他、細かいご意見多数。

▼学校無料配信について

現在、全国で 41 校の学校に無料配信を実施している。内訳としては、小学校 26 校、中学校 10 校、高校 4 校、大学 1 校。金子委員が校長を務める、明治大学付属明治高等学校・中学校に第 1 校目として名乗り出ていただいた。

▼委員の主な発言

【視聴者のご意見に関して】

- 視聴者からの意見は、どのような方法で寄せられているのか。(足立委員)
 - ↳カスタマーセンターへのお電話、ハガキ・お手紙による投書、ホームページのオンラインフォームからのお問い合わせです。(事務局)
- どういった意見があるのか、私たち委員にも全容がわかるようにしていただきたい。(足立委員)
- 寄せられた意見についてはしっかりとデータベースを構築し、年齢別、男女別、地域別などの統計をとって、番組制作や今後の対応に活かしていくべき。(中村委員)
- 『中国竜星戦』に対し、「盤と字幕の両方を目で追うことができない」という意見が寄せられているようだが、吹き替えの方が良いのでは。(兵頭委員)
 - ↳そのように考えているが、字幕にした理由は、費用的な面と、聴覚障害者に対する 100% の字幕付与という面から。(岡本社長)

【編成・番組制作に関して】

- 24 時間、すでに用意してある番組を放送しているようだが、将棋界・囲碁界の突発的なイベントなどにも即時対応し発信できるよう、柔軟な編成が行えると良い。(金子委員)
 - ↳土日の特番枠や土曜の 14 時枠などは、必要に応じて自由な番組をはめこめる枠としております。(事務局)
- 昨年 11 月に実施された「将棋検定試験」では森内名人らが試験を受け、トークショーを行うなどして盛り上がった。たとえばこういったものを番組にしてみると、周知や普及につながるのでは。(金子委員)
 - ↳まず、CS の特徴として「生放送が少ない」ということが言える。それは費用的な面が主な理由だが、囲碁・将棋チャンネルは“放送局”なので、将来的には自社で記者を養成し、まずはウェブで発信していきたいと考えている。年間を通じて情報収集すべきかイベントや情報がどのくらいあるのか、囲碁と将棋それぞれでリサーチを進めている。(岡本社長)
- (岡本社長の発言に対して) 囲碁・将棋チャンネルの番組のレパトリーを増やしていくためにも重要なことだと思う。(足立委員)
- 子どもたちや学生への普及を目的とするのであれば、現場で活用できるような、子どもたちに向けた番組づくりをしていかなければいけない。(足立委員)
- 制作した番組は、コンテンツ活用のために当然再放送をするべきだが、コンテンツ自体が面

白いものでなければ、繰り返し放送しても退屈なチャンネルとなってしまふ。「この番組は何をやろうとしているか」ということを、番組ごとにはっきりと打ち出していくべき。(岡田委員長)

- NHK 杯など、昔の番組も面白い。自社で番組を作るばかりではなく、囲碁・将棋に関するコンテンツを自分たちなりの切り口で集め、放送・展開させることが大切。(岡田委員長)
- 今、一線で活躍しているプロ棋士たちの若かりし頃などは見えて面白い。(岡田委員長)
- 手番表記を開始したとのことでずいぶん改善されたが、対局番組の手番がわかりづらい。特に、途中から見た場合、画面を見ただけではパッとわからない。先手と後手、今どちらが考えているか、棋士はどのような顔をしているか等、ドキュメンタリー性を重んじ、かつ画面でわかりやすくそれらを見せてほしい。(岡田委員長)
- 「駒桜通信」、面白い番組だが全員分を続けて見るのは大変では。(中村委員)
- 短い番組だから、一日に何回も放送があっても良いと思う。(兵頭委員)
 - ↳1 週間に 11 回の再放送を行っている。また、後日ネットでも期間限定で番組本編を公開する予定。(事務局)
- 対局番組や棋譜解説番組の解説者は、どのように選んでいる？(岡田委員長)
 - ↳制作と編成で話し合っていて決めている。(事務局)
- 解説者によって、番組の面白さが違って来る。アマチュアが見て「わからない」と思っている箇所を解説してほしいのに、解説者が「わからない」と言うことがあり、もどかしい。強い棋士の解説はやはり面白く、解説に誰を起用するかということは重要だと感じる。(岡田委員長)

【その他】

- 現在、さまざまな将棋マンガが売れているようだが、そういったものとの連携はあるのか。(中村委員)
 - ↳主催イベントとの番組連動で、「J:COM 杯 3月のライオン 子ども将棋大会」では、将棋を扱った人気漫画『3月のライオン』とのコラボレーション企画を行っている。囲碁では現在『星空のカラス』という少女漫画とそういった企画を練っている。(岡本社長)
- (番組プレゼントとして) 揮毫入り色紙のプレゼントなどが多いが、対局番組で似顔絵等をプレゼントしてみても。(関根委員)
- 羽生善治三冠の講演会を聴講する機会があったが、女子大生や、将棋のことはほとんどわからないような若年層もたくさん来ていた。若い人たちはイベント性があるものに「なんだろう？」というひっかかりで集まってくる。そういったところに普及のヒントがあるのでは。(中村委員)

(以上文中:敬称略)

囲碁・将棋チャンネルでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。

以上